

2015年 5月11日

(提言) 旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地を平和のための文化財として保存・公開を

日本科学者会議埼玉支部幹事会

桶川市内の川田谷に、昭和12年に開校した旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場(通称「桶川飛行学校」)の建物が今も残っています。

桶川市の調査によると、桶川飛行学校は昭和12年6月に開校し、召集下士官、少年飛行兵、特別操縦見習士官など、昭和20年2月の閉校までに20期余り、推定1,500-1,600名の航空兵を養成しました。昭和18年9月に卒業した少年飛行兵第12期生は45名中18名が、昭和19年3月卒業の特別操縦見習士官第1期生は80余名中20名近くが戦死しています。昭和20年には、特攻隊の訓練基地としても使用され、同年4月5日には、陸軍初の練習機による特攻となる第79振武特別攻撃隊12名が知覧基地に向け出陣しています。戦後は海外からの引揚者等のための寮(通称:若宮寮)として使用され、平成19年3月に最後の入居者が転出したことで、寮としての役目を終えました。

それを機に、桶川飛行学校の元学生・生徒及び元職員らを中心に「旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会」(語り継ぐ会)が創られ、この跡地を保存して行く運動が始まりました。平成21年2月には、1万4千筆の署名を添えて跡地保存を求める要望書が市及び県へ提出され、桶川市は平成22年1月に国から土地を買い受け、跡地は建物も含めて市の財産となりました。

その後、桶川市では、旧若宮寮跡地活用検討委員会、庁内活用検討委員会が設置され、検討の結果、保存継承するための整備を図る方針が示されました。昨年7月にはパブリックコメントが実施され、桶川市民から「戦争賛美ではなく、平和の大切さを確認するための場所としてください」との複数意見をはじめ、「歴史的検証、戦争への反省についての(市の)スタンスが不明確」、「昔の学校建築を残すことは賛成ですが、一時代に特化した復元は(中略)歴史を美化する危険」、「桶川市として戦争をどう捉え、軍事施設が残っているこの場所を紹介するのか先に提示すべき」、「戦争の美化とまらないための運営はどうすべきか検討すべき」などの貴重な意見が多数寄せられました。昨年、10月4日には、桶川市と「語り継ぐ会」による桶川市協働事業としての「シンポジウム旧陸軍桶川飛行学校からのメッセージ〜戦争遺跡をどう残すか〜」が開催されました。その基調報告では、戦争遺跡保存全国ネットワーク共同代表で山梨学院大学の十菱駿武客員教授が、保存・活用の課題として、「戦争の記憶と戦争遺跡の保存の目的」は「靖国史観・英霊顕彰のためでなく、平和の維持と継承のために、加害・被害・抵抗の歴史をトータルに調べ、伝える」ことを提起しました。

戦後七十年、アジア・太平洋戦争の直接の体験者が年々少なくなっていく現在、戦争の記憶は「ひと」から「もの」へと確実に移行しつつあり、戦争遺跡を保存する運動の意義は一層大きくなっています。歴史の証人である戦争遺跡・戦争資料は、過去の反省の上に築かれ

た現在の平和の価値を確認し、未来への指針を示す歴史の真実を語る遺産です。地域の戦争遺跡を調査・研究・保存し、戦争の実相を明らかにし、平和のための語り部として再生させるための活動を通じて、明日への平和の創造に貢献することが出来ます。

その意味で、旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場の建物とその跡地は、全国的にも数少ない、たいへん貴重な戦争遺跡です。

「語り継ぐ会」の「戦争をなくすことは人類の悲願です」との設立趣意や、理事で元整備員の方の「いかなる理由があっても、戦争は二度としてはいけない」との痛切な想いを実らせるために、次の二点を提言いたします。

第一に、旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地は飛行兵学校の建造物が群として良好に残存している国内で唯一の戦争遺跡といわれます。旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地を文化財に指定・登録し、出来るだけ現状のまま保存すること。

第二に、旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地を介して、平和の維持と継承のために、戦争の実相と、特攻作戦の不条理を後世に語り継いでいくことです。そのために、戦争の加害・被害・抵抗の歴史を事実に基づいて総合的に調べ、戦没者、遺族とその関係者の思いに心を寄せ、決して戦争や特別攻撃という人命軽視の作戦の賛美にならないように保存・公開すること。

2015年 5月18日

桶川市長 小野克典 様

日本科学者会議埼玉支部幹事会

### 旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地の保存・公開に関する要望書

戦後七十年、アジア・太平洋戦争の直接の体験者が年々少なくなっていく現在、戦争の記憶は「ひと」から「もの」へと確実に移行しつつあり、戦争遺跡保存運動の意義は一層大きくなっています。歴史の証人である戦争遺跡・戦争資料は、過去の反省の上に築かれた現在の平和の価値を確認し、未来への指針を示す歴史の真実を語る遺産です。

特に、地域の戦争遺跡は、未来を担う子供たちを含む市民が、それらを調査・研究・保存し、戦争の実相を明らかにし、平和のための語り部として再生させるための活動を通じて、明日への平和の創造に貢献することが出来ます。

その意味で、旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場の建物とその跡地は、全国的にも数少ない、たいへん貴重な戦争遺跡です。

つきましては、旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地の保存事業を進めるに当たっては、日本国憲法の平和主義を遵守する立場から、人類の悲願である戦争廃絶のために、また戦没者、遺族とその関係者の「いかなる理由があっても、戦争は二度としてはいけない」との想いに心を寄せ、歴史の真実を語り継ぐために、下記の点を要望いたします。

#### 記

- 要望1 旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地を文化財に指定し、出来るだけ現状のまま保存すること
- 要望2 平和の語り部として、戦争の実相と特攻作戦の不条理を後世に語り継ぐための歴史遺産として、旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地の保存・公開を図ること、